医療 IT における標準化の重要性を提言

「第 1 回地域医療再生計画に係る有識者会議」レポート

株式会社シード・プランニング

1 月 25 日に厚生労働省省議室にて「第 1 回地域医療再生計画に係る有識者会議」（座長＝梶井英治・自治医科大地域医療学センター長）が開催された。総額 2,350 億円、1 地域あたり 25 億円の予算が配分される地域医療再生計画について、計画の評価や助言を行う目的で開催される有識者会議で、今回が第 1 回の会合である。会議ではいくつかの議題について話し合われたが、地域医療再生計画における IT 活用についても提言がなされた。

内閣府の津村大臣政務官と IT 戦略本部医療評価委員会の山本隆一座長より行われた地域医療再生計画における IT 活用についての提言は、会議の冒頭に行われた。まず津村大臣政務官より、IT の活用に際しては規格統一によるコスト削減が有効であり自治体ごとの縦割りにならないように、横串を入れることの重要性が述べられた。山本隆一座長からは、IT 戦略本部において全体最適化がテーマであるという説明があり IT 活用に関する具体的な提言がなされた。

- IT を導入する以前の、人的連携が重要である。
- 低コストにすることでサステナビリティ（持続可能性）な情報連携ネットワークシステムを作らなくてはならない。
- ニーズがあるシステムを作るべきであり、シーズだけでシステムを作ってもうまくいかない。
- 拡張性があるシステムであるべきである。
- 個人が移動した際に、個人の医療の継続性を担保しなくてはならない。

これらの要件を満たすためには、形式、用語コードの標準化が重要であるとされた。
内田健夫委員（日本医師会常任理事）からも、総額 2,350 億円の予算のうち、ざっと 1 割程度が IT 関連とされ、およそ 200 億円が IT に投資されるが、平成 12 年度に経済産業省が 26 ヶ所の地域に約 56 億円を投入して電子カルテ共有を行った事業の多くが、その後継続しなかった例を挙げ、標準規格や標準コード・マスターを採用することの重要性が述べられた。

地域医療再生計画をきっかけに、全国で医療 IT の標準化が推進されること可能性があり、今後も注目していく必要がある。

■ 関連レポート

「2010 年版地域医療再生計画総合分析調査」

発刊日 2010 年 2 月（予定）

体裁 A4 / 400 ページ

販売価格 99,750 円（本体価格 95,000 円、消費税 4,750 円）

発行 株式会社シード・プランニング

http://www.seedplanning.co.jp/report/01745.html